

農商工連携研究会 植物工場WGの開催について

平成21年1月16日
経済産業省地域経済産業グループ

1. 農商工連携研究会植物工場WGの設置について

「新経済成長戦略」の閣議決定を踏まえ、地域活性化に向けた具体的な戦略として、農商工連携の取組の更なる推進を目指し、経済産業省地域経済産業審議官及び農林水産省総合食料局長の私的研究会として「農商工連携研究会」を設置(第1回:H20. 12/17開催、第2回:H21. 1/14開催)

ー 植物工場のあり方についての検討は、農商工連携研究会の下に「植物工場WG」を設置して植物工場の普及に向けて具体的な取組を提案していく。

農商工連携研究会

※なお、並行して開催する地域経済研究会(座長:大西隆 東京大学大学院工学系研究科教授)において、農商工連携の地域に与える経済効果について、シミュレーション分析を実施。

座長:門間 敏幸(東京農業大学国際食料情報学部生物企業情報学科教授)

更なる農商工連携の取組の推進のため、幅広いテーマについて、関係機関や有識者との意見交換を通して検討し、支援施策のあり方を示す。

※高知県 尾崎知事ほか10名の委員により構成。

Gで検討
掘り下げが必要なものはW

植物工場WG

<座長:高辻 正基(東京農業大学客員教授)>

環境制御下での農業生産に関して、一定の知見が確立されたことを踏まえ、産業立地施策や実用化開発・金融・人材育成等の支援措置を前広に検討。

平成20年9月改定 新経済成長戦略
(抜粋)

近年、植物工場と呼ばれる人工的環境制御による施設内における作物の自動周年生産システムが確立されつつある。これまで、閉鎖空間での水耕栽培については、設備コスト、ランニングコストが大きすぎるにより投資の回収が困難である等の課題が指摘されてきた。

しかし、先進的取組においては、失敗から得た教訓を活かし、技術開発の一層の推進と農業生産・経営に関する知見やノウハウの分析・活用に取り組んでいる。こうした新たな食料生産システムの普及・拡大は、食料の安定供給と農業の産業化を同時に実現する可能性を秘めており、環境への影響にも配慮しつつ積極的に支援する。

2. 植物工場WGの検討テーマについて

◆検討項目案

- ・植物工場の普及・拡大に向けた課題の分析
 - －事業展開上の課題(初期コスト・流通・販路開拓等)
 - －農産物生産に関する課題(栽培技術・環境制御技術等)
- ・植物工場の設置に伴う制度上の考え方の整理
 - －建築物・土地の用途の整理
- ・植物工場の普及支援策の検討
 - －低利融資制度、人材育成、工業団地・貸事業場の取扱い等
 - －研究開発支援等

◆今後の進め方

全4回程度の開催の中で各回ごとにテーマを設定し、各委員のほか、それぞれのテーマに応じたプレゼンター（植物工場事業者等）を招いて議論を深めていくこととする。

(1) 関連調査について

- ① 植物工場の実態把握調査を実施(事例集の作成)。
- ② 経済産業省別館ロビーにて、植物工場のデモンストレーションを実施。
(1月中旬より3月上旬まで実施予定)

デモンストレーション 完成イメージ

- ・ 上段に蛍光灯でイチゴを栽培。
- ・ 下段に高輝度LEDでレタスを栽培。



(2) 本ワーキンググループの公開について

本WGについては、委員各位による率直かつ自由な意見交換を確保する必要があることから、非公開とする。

ただし、本ワーキンググループの配付資料、議事要旨等については、農林水産省ならびに経済産業省のウェブサイト上において原則公開とする。

また、母体となる農商工連携研究会においても本WGの討議内容を適宜報告する。